

# ネコのひげ

折井 英治

ネコの顔には、りっぱなひげがあるでしょう。口のまわりのひげはとくに長く、目の上、あごの下などにも、たくさん生えています。

人間にもひげはありますが、人間のひげは、短く切ったりそり落したりしても、生きていくうえには不自由はありません。ところが、ネコは、ひげを切られると、動きがぶくなつてしまいます。

ネコのひげは、ちよつと見ると、ふつうの毛が長くなっただけのように見えますが、そうではないようです。ネコのひげには、どんな仕組みがあるのでしょうか。

人間のひげや毛は、物にさわるとふれた感じがなんとなくつたわってきます。これは、ひげや毛が動くとき、それにつれて根もとの皮ふが動き、その動きが、そのわまりのしんけいをしげきするからです。それに対して、ネコのひげは、ちよつと何かにさわってもすぐに分かる、感じる力のするどいひげです。このひげを触毛といいます。

ネコの触毛は、皮ふから直せつ生えているのではなく、えきがいつぱい入ったふくろの中に、ういているように生えています。触毛の根のまわりには、しんけいが輪のように取りまいていて、触毛が少しでも動けば、しんけいにさわります。ですから、触毛の先が何かにちよつとさわっただけで、すぐに感じる事ができるのです。

このような触毛は、どんなものにもあります。ゴリラやチンパンジーにも、小さい触毛が少しあります。けれども、人間にだけはありません。

では、ネコの触毛には、どんなはたらきがあるのでしょうか。ネコの顔の触毛は、広げると顔を取りまく大きな円のような形になります。ネコは、この円の直径と同じはばがある所なら、どこでも通りぬけられます。ネコは、この触毛を使って、通れるかどうかを決めているのです。

また、ネコは、えものを見つけると、見うしなわなないように、しっかりと見つめたまま近づきます。ネコは、あごで地面をこするようにして、前足をふみ出します。この時ネコは、足もとを見なくても物にぶつからずに、えものに近づくことができます。ネコは、この触毛を使って、地面をさぐりながら進んでいくのです。

ネコの触毛は、前足の、人間でいえば手首の内がわに当たる部分にもあります。地面をさぐるには、この触毛も役に立っています。

このように、ネコのひげには、とくべつの仕組みとはたらきがあります。ですから、もし、ネコがひげを切られたら、動くえものを見つめながらすばしく進むことができないので、えものをつかまえられなくなります。昔、ネコがイエネズミたいじの主役だったころ、「ネコのひげを切るとねずみをとらなくなる。」と言われていましたが、実は、とらなくなるのではなく、とれなくなるのです。

ネコは、よく顔をあらうようなしぐさをします。毛づくろいということもあるでしょうが、あれは、主として、触毛についたちりをはらうためだと言われています。ネコは、自分のひげのちりをはらって、大切な触毛の感度を落とさないようにしているのです。

## 要約文（例）

ネコのひげは触毛といい、感じる力がするどく、何かにちよつとさわっただけで、すぐに感じることができるような生え方になっている。どんなけものにもあるが、人間にだけはな

ネコは、触毛を使って、通れるかどうかを決めたり、地面をさぐったりしながら進んでいる。触毛は、前足にもある。

ネコがよく顔を洗うようなしぐさをするのは、触毛の感度を落とさないようにするためである。